

I. 広東省

1. 各種会議等の開催

●10日、李希・省党書記主宰の省党常務委員会議で、習近平・総書記の署名入り文章である「『紅船精神』の発揚、時代の先頭に行く」の精神、習近平・総書記が2017年広州フォーチュン・グローバル・フォーラムの際に送った祝賀メッセージの重要な精神を伝達・学習し、その関連文書について審議した（12月11日付『南方日報』）。

※「紅船精神」：浙江省嘉興市の南湖紅船は、第1回党大会が開催された場所の1つ。「紅船精神」は中国革命の源であり、建党の精神を明示。

●11日午前、李玉妹・省人代主任主宰の省人代常務委員会党組織会議が開催され、習近平・総書記の署名入り文章である「『紅船精神』の発揚、時代の先頭に行く」を伝達・学習し、それを貫徹・実行するための意見について検討し、次のように強調した。「紅船精神」を力強く発揚・実践し、初心を忘れず、使命を銘記しなければならない（12月12日付『南方日報』）。

●12日、李希・省党書記主宰の2017年広東省参事政策決定諮問会議が開催され、馬興瑞・省長も出席。李書記は特別視察と省政府参事室（文化・歴史館）の業務を十分に肯定し、次のように強調した。習近平による新たな時代の中国の特色ある社会主義思想を深く学び、徹底的に理解し、政治参加・提言・献策の役割をより良く発揮しなければならない（12月13日付『南方日報』）。

●13日、李希・省党書記主宰の省党理論学習中心グループによる学習会が開催され、『習近平、政治運営を語る 第2巻』を特別に学習した。李書記が講話を行い、馬興瑞・省長が発言を行なった。李玉妹・省人代主任、王栄・省政協主席も出席（12月14日付『南方日報』）。

●先頃、李希・省党書記主宰の省党常務委員会議が開催され、「四風（形式主義、官僚主義、享楽主義、贅沢主義）」を更に正し、品行方正な仕事のやり方を強化することに関する習近平・総書記の重要指示を伝達・学習し、広東省がそれを貫徹・実行するための意見について検討（12月14日付『南方日報』）。

2. 広東・香港・マカオ・ベイエリア建設、観光関連

●10日午前、国家発展改革委員会都市・小都市改革発展センター、肇慶市政府が広東・香港・マカオ・ベイエリア発展サミット・フォーラムを開催。政府関連部門、学术界、産業界から500人の来賓が出席し、議論を交わし、同市に対する献策を行なった。同ベイエリア内において、同市は交通、土地・資源、生態環境、後発産業地域、歴史的・文化的資源、集中的な政策サポート等の強みが際立っており、最も潜在力を有する都市である（12月11日付『広州日報』）。

●11日、珠海市で広東・香港・マカオ・ベイエリア都市観光連合会メンバー大会が開催され、その場で「同連合会規約」が採択されるとともに、署名式が行われた。これにより、「9+2」の都市が共に手を携えて、同ベイエリアに世界レベルの観光地を築いていくこととなった（12月12日付『南方日報』）。

※「9+2」：広州市、深圳市、珠海市、仏山市、恵州市、東莞市、中山市、江門市、肇慶市の珠江デルタ9市と香港、マカオの2地域を指す。

●12日、珠海市で珠海市政府、省観光局、省文化庁主催の2017広東観光・文化祭が開幕。これは2011年から隔年で開催されており、これまでに韶関市（2011年）、清遠市（2013年）、仏山市（2015年）で行われた（12月12日付『南方日報』）。

●12日、省公安厅によれば、同庁は第19回党大会の精神、広東・香港・マカオ・ベイエリア建設に対する習近平・総書記の指示を貫徹・実行すべく、イミグレーション・ビザ、車両の出入国、国境の通関検査、ハイレベルな人材の誘致、消防、3地域の警察による協力等、同ベイエリア建設に関する18の措置を発表した（12月13日付『南方日報』）。

●先頃、「広州・深圳科学技術イノベーション回廊計画」が正式に発表され、2050年までに国際的かつ一流の科学技術イノベーションセンターを築き、全国のイノベーションによる発展の重要な一極となり、中国版「シリコンバレー」になっていくことが示された（12月14



※広州・深圳科学技術イノベーション回廊：上図10か所が同回廊の中心的なイノベーション・プラットフォームとなり、広州・深圳科学技術イノベーション経済ベルトを形成。

日付『南方日報』)。

3. 李希・省党書記が中山大学を視察

●11日、李希・省党書記が中山大学を訪れ、第19回党大会の精神について講演し、党大会の精神の学習・宣伝・貫徹、大学における党建設、新たなタイプのシンクタンクの構築等に関する視察を行い、次のように述べた。習近平による新たな時代の中国の特色ある社会主義思想を導きとし、大学業務に対する党の全面的な指導を堅持かつ強化し、世界一流の高水準の大学を作っていくよう努めなければならない(12月12日付『南方日報』)。

4. 農林漁業・畜産業関連

●12日午前、省農業庁主催の第16回広東種苗博覧会が開幕し、鄧海光・副省長、吳清平・中国工程院院士が開幕式に出席するとともに、展示会場を視察(12月13日付『南方日報』)。

●10日～13日、香港で香港漁業・農業署、香港競馬会主宰の規定された馬属動物の疫病非感染区(非感染区)国際会議が開催され、10数か国・地域、関連国際機関の代表200人余りが出席するとともに、13日に広州市従化区の非感染区の建設状況を実地視察した。キャリー・ラム香港行政長官が開幕式に出席するとともに挨拶。会議期間中、香港行政長官立会いの下、農業部、省農業庁がそれぞれ香港食物・衛生局、漁業・農業署と、従化区非感染区協力党書に署名した(12月15日付『南方日報』)。

5. 袁宝成・副省長が在中国アルゼンチン大使と会談

●12日午前、上記会談で袁宝成・副省長は在中国アルゼンチン大使の訪問に歓迎の意を表するとともに、広東省の経済・社会発展状況を簡潔に紹介し、次のように述べた。同省は同国と越境電子商取引、観光産業、工業、農業等の分野における協力を強化し、両地域の交流・協力を更に一段階上のステージに上げるよう推進していきたい(12月13日付『南方日報』)。

6. 広東省「海外進出」エネルギーインフラ産業連盟が設立

●先頃、中国エネルギー建設集団広東省電力設計研究院は、上記連盟がすでに設立されたことを明らかにした。同連盟は、同省のエネルギーインフラ企業がしっかりと結束して「海外進出(走出去)」を行うためのプラットフォームを築くとともに、自律的な調整機関を構築し、価格を乱す無秩序な競争等の好ましくない行為を禁止することを目的とする。同院、中国輸出信用保険公司広東支社、華潤電力ホールディングス有限公司、ファーウェイ等7社が発起し、同連盟を設立(12月14日付『南方日報』)。

7. 2017中国海洋経済博覧会の開催

●14日午前、湛江市で上記博覧会が開幕し、馬興瑞・省長の委託を受けた鄧海光・副省長、石青峰・国家海洋局副局長、愈満江・海軍南海艦隊副司令官、鐘建昌・省軍区副政治委員等が開幕式に出席。趙興発・元海軍副司令官等も開幕式に出席するとともに、展示場を見学した。世界63の国と地域、全国21省・市・自治区、46の沿岸部の都市から3000社以上の企業が参加。中国が「メタンハイドレート」の初採掘に成功したシーンの模型等が展示された(12月15日付『南方日報』)。

8. 広東省「習近平による新たな時代の中国の特色ある社会主義思想」研究センターが設立

●先頃、中央政府が上記研究センターの設立を認可した。これは中央が第1陣として認可した10の上記思想研究機関の1つであり、全国ではまず広東省、北京市、上海市での設立が承認された(12月16日付『南方日報』)。

9. 中国・韓国(惠州)産業パークが設立

●15日、「上記産業パーク設立の同意に関する国務院の回答」が対外的に発表され、惠州市に上記産業パークが設立されることとなった。2015年、中国、韓国両国がFTAに署名し、2017年、商務部は山東省煙台、江蘇省塩城、広東省惠州市に韓国の新万金プロジェクト地区と産業パークを建設することを明らかにした。国内の産業パークは既存の経済・技術開発区、ハイテク産業開発区の建設に組み込まれるが、具体的な実施プランは各省政府が制定する(12月16日付『南方日報』)。

10. 2017中国・国際ドナー大会の開催

●16日、広州市で中国ドナー・移植委員会等主宰の上記大会が開催され、国内外から500人余りの専門家が出席。12月10日時点で、中国大陸のドナーによる死亡後の臓器提供数は1万4861件、ドナー登録者数は36万人以上となっており、2020年には中国が世界一の移植大国になる見込み。本年7月、中山大学附属第一病院の何曉順・教

授のチームが世界で初めて無虚血肝移植手術に成功し、半世紀にわたり世界の科学者を悩ませてきた難題を突破した（12月17日付『南方日報』、『深圳特区報』）。

II. 広州市

1. 区党書記業務会議の開催

●11日、任学鋒・市党書記主宰の上記会議で、国家監督・査察体制改革の深化、フォーチュン・グローバル・フォーラムの総括等にかかる各区の業務を手配し、次の業務の実行を推進した（12月12日付『広州日報』）。

2. 任学鋒・市党書記が袁隆平・中国工程院院士一行と懇談

●11日、任学鋒・市党書記が広州国際種苗センター建設状況報告会ならびに広州種苗連盟会員大会に出席した袁隆平・中国工程院院士一行と懇談。このたびの大会には国内外から政府関係者、院士等の専門家、同業界の協会、企業代表1200人余りが招かれた。広州市は現在、2018年に開催予定の「第1回広州国際種苗祭」の準備作業を行なっている（12月12日付『広州日報』）。

3. 文化関連

●12日、2017広州文化産業交易会（文交会）が開幕し、英国のクリエイティブ産業を代表するジョン・ホーキンス氏（『クリエイティブ・エコノミー』の著者）をはじめとする海外の来賓、李金生・中国対外文化集团公司党書記、韓子勇・国家芸術基金管理センター主任等が開幕式に出席（12月13日付『広州日報』）。

●12日、2017中国（広州）国際ドキュメンタリー祭が開幕し、31の国と地域から135の関連機関が参加。国内外の機関による参加登録数は613に達し、3014人の業界有識者が参加。同日午前、開幕式ならびに南派ドキュメンタリー創作サポート交流会が行われ、慎海雄・省宣伝部長、趙化勇・中国テレビ・芸術家協会名誉会長等が出席（12月13日付『広州日報』）。

4. 市政府と四開花園会社が協力枠組み協定に署名

●13日午後、市政府と四開花園ネットワーク科学技術（天津）有限公司が協力枠組み協定に署名し、4Kテレビネットワークの応用と産業発展を共に推進していくこととなった。袁宝成・副省長、温国輝・市長が署名に立ち会った（12月14日付『広州日報』）。

※四開花園ネットワーク科学技術（天津）有限公司：4Kのコンテンツの生産・配信のプラットフォームを提供する国内最大手企業。

5. 第15期市人代第2回会議が開幕

●15日、陳建華・市人代主任主宰の上記会議が開幕し、「第15期市人代第2回会議選挙弁法」を採択。任学鋒・市党書記、劉悦倫・市政協主席等が出席（12月16日付『広州日報』）。

6. 任学鋒・市党書記が2017広州バイオ医薬産業発展円卓会議の来賓代表と懇談

●15日、任学鋒・市党書記が、中国科学院外国籍院士、王曉東・百濟神州連合創設者、李雲春・雲南沃森バイオ製薬董事長等、上記会議に出席した16人の来賓代表と懇談（12月16日付『広州日報』）。

7. 広州港集団と東莞港務集団が戦略的提携

●15日、広州港集団と東莞港務集団が戦略的協力枠組み協定に署名。双方は広東・香港・マカオ・ベイエリアの建設を契機に、互いの強みを補完し資源を共有する広州・東莞海運システムを共に構築し、港湾資源を科学的に計画し、両港の一体的な建設・発展を推進し、力を合わせて世界レベルのハブ港を築いていくこととなった（12月16日付『南方日報』）。

III. 深圳市

1. 反腐敗にかかる処分

●14日、深圳明鏡網（深圳市紀律検査委員会ウェブサイト）は、謝建民・市経済・貿易・情報化委員会副主任を重大な紀律違反の疑いで調査中と発表（12月15日付『深圳特区報』）。

2. 市党第6期第8回全体会議の開催

●9日、上記会議が開催され、王偉中・市党書記が市党常務委員会を代表し、第19回党大会の精神を全面的に学習・宣伝・貫徹することに関する特別講話を行なった。また、「党大会の精神を引き続き深く学習・宣伝・貫徹し、習近平による新たな時代の中国の特色ある社会主義思想を偉大な旗印として高く掲げ、社会主義の現代化を先頭に立って行う地

域を率先して建設していくことに関する市党委員会の決定」,「市党第6期第8回全体会議の決議」について審議し採択（12月11日付『深圳特区報』）。

3. 深圳市がキルギス・ビシュケク市と友好都市関係を締結

●12日,第6期市人代常務委員会第21回会議の承認を経て,深圳市とビシュケク市(キルギスの首都)が友好都市関係を締結した。キルギスは中央アジア東北部に位置し,同国の東南側,東側は新疆ウイグル自治区と国境を接している。ビシュケク市は古来より中央アジア地域及びシルクロード沿線の重要な街かつハブであり,アジアと欧州をつなぐ重要な通り道である。双方は2013年に友好交流協力関係を結び,ZTE,ファーウェイ等の企業が業務を展開している(12月13日付『深圳特区報』)。

4. 韓国・仁川港が深圳港の友好港に

●13日午後,深圳港と仁川港が友好港関係締結協定に署名し,深圳港の23番目の国際友好港となった(12月14日付『深圳特区報』)。

5. 2017深圳院士・専門家サミット, 広東・香港・マカオ・ベイエリア・イノベーション発展フォーラムの開催

●13日午後,上記サミットならびにフォーラムが開催され,18人の院士が一堂に会し,広東・香港・マカオ・ベイエリアにおけるイノベーションによる発展に対する提言・献策を行なった。呉以環・副市長が出席するとともに挨拶。李焯芬・中国工程院院士が「ベイエリアから一帯一路まで」をテーマとした報告を行なった(12月14日付『深圳特区報』)。

6. 王偉中・市党書記がマーティン・シュミットMIT教務局長一行と会談

●13日午後,王偉中・市党書記が上記一行と会談し,双方は協力の新たなメカニズムを積極的に模索し,高等教育,科学技術イノベーション,人材育成等の分野における交流を深め,実務協力を不断に拡大していきたいと述べた(12月14日付『深圳特区報』)。

7. 深圳-パタヤ,ベトナム・フーコック島直行便が就航

●14日,深圳東海航空による深圳-パタヤ直行便が就航し,15日,同航空会社によるフーコック島直行便が就航した(12月15日付『深圳特区報』)。

8. 習近平による新たな時代の中国の特色ある社会主義思想,マルクス主義哲学理論刷新シンポジウムの開催

●16日,上記シンポジウムが開催され,全国各地の専門家が上記思想をめぐって理論的検討を行なった。王偉光・中国社会科学院院長が挨拶を行い,畢京京・元国防大学副総長が基調発言を行なった。周文彰・元国家行政学院副院長,夏興・元国防大学教育長も出席(12月17日付『深圳特区報』)。